将来の社会的課題に対する生物多様性からの貢献イメージの例

資料５

※各種計画が描く将来像・社会的課題等（資料５別添）を踏まえた整理。今後さらに進化させていきたい。

将来の社会的課題の例

国内の人口減少・少子高齢化
- 農山漁村の人口減・活力低下
- コミュニティの弱体化
- 中山間地域等の無居住地化
- 都市の人口減・スポンジ化
- 高齢人口の大幅増加
- 子育て環境の不安
- インフラ維持管理の費用増

国際秩序の変動
- 資源獲得競争の激化
- 国内産業の競争力低下

新技術対応の立ち遅れ等
- リーディング産業の不在
- 低生産性・低付加価値
- 就業構造・ライフスタイルの変化

気候変動
- 自然災害リスクの顕在化

生物多様性からの貢献の例

- ◆観光資源としての有効活用
- ◆農林水産業（食料・建材・肥料）
- ◆エネルギー資源としての有効活用（燃料等）
- ◆コミュニティ活動としての地域の自然の利用・管理
- ◆無居住地での自然と調和した減災機能の発揮（Eco-DRR）
- ◆都市内の空白地の緑地化・グリーンインフラ化
- ◆居住地周辺の質の高い緑地等による健康への貢献
- ◆居住地周辺の質の高い緑地等における野遊び・マイナーサブシステンスの提供
- ◆無居住地での自然と調和した減災機能の発揮（Eco-DRR）
- ◆食料・木材・エネルギー資源として国内の自然の有効活用
- ◆生物多様性分野のCSR・サプライチェーンマネジメント・ESG投資等への対応支援
- ◆新産業への資源の供給や快適な職場環境の提供
- ◆職場や居住地に近接した質の高い緑地・緑化等によるアメニティの強化
- ◆食料・エネルギー供給の地域分散化
- ◆無居住地での自然と調和した減災機能の発揮（Eco-DRR）
- ◆二次的自然等の保全・管理による国土強靭化
- ◆CO_2の吸収源（緩和）

生物多様性からの貢献の整理の例

①資源の供給の観点：未利用の自然を国内の社会経済活動の資源として、または付加価値の創出に利用すると同時に、海外資源の利用への配慮も組み込む。

- ◆観光資源としての有効活用
- ◆農林水産業（食料・建材・肥料）
- ◆エネルギー資源としての有効活用（燃料等）
- ◆食料・木材・エネルギー資源として国内の自然の有効活用
- ◆生物多様性分野のCSR・サプライチェーンマネジメント・ESG投資等への対応支援
- ◆食料・エネルギー供給の地域分散化

I.国内外の社会・経済活動への生物多様性の組込み
- ①国内の自然の地域資源としての有効活用（観光・農林水産業等）
- ②海外資源利用の生物多様性配慮（サプライチェーンCSR）

→ 資源の供給

②国土の強靭性の観点：人口減少によって居住地として利用されなくなった土地が減災機能（土砂流出防止・洪水防止等）を発揮するように保全・管理。

- ◆無居住地での自然と調和した減災機能の発揮（Eco-DRR）
- ◆都市内の空白地の緑地化・グリーンインフラ化
- ◆二次的自然等の保全・管理による国土強靭化
- ◆CO_2の吸収源（緩和）

II.国内生態系の強靭性の確保
- ①人口減少で利用されなくなった土地の減災機能の発揮（Eco-DRR）
- ②二次的自然の保全・管理の強化（人工林管理等）

→ 国土の強靭性等

③生活の場の観点：職場や居住地周辺に良好な自然を確保し、Society5.0の新たな価値・ライフスタイル（アメニティ・健康・子育て）の基盤を提供

- ◆コミュニティ活動としての地域の自然の利用・管理
- ◆都市内の空白地の緑地化・グリーンインフラ化
- ◆居住地周辺の質の高い緑地等による健康への貢献
- ◆居住地周辺の質の高い緑地等における野遊び・マイナーサブシステンスの提供
- ◆新産業への資源の供給や快適な職場環境の提供
- ◆職場や居住地に近接した質の高い緑地・緑化等によるアメニティの強化

III.新たな価値・新たなライフスタイルの基盤の提供
- ①アメニティ・健康・子育て環境の強化（緑地・グリーンインフラ等）
- ②都市や集落周辺における自然の再生・管理

→ 生活の場の提供

【論点】

① 社会的課題に対して生物多様性はどのような貢献を提案できるか。
② 各種施策とどのようなシナジーが考えらえるか。
③トレードオフの関係にある施策との折り合いや留意点。
④日本として国際的に積極的に発信できる事項は何か。